

祝 熱・エントロピー科学研究センター発足

大阪大学大学院理学研究科招聘教授・筑波大学数理物質科学研究科 齋藤一弥

1979 年、関 集三先生の退官と同時に化学熱学実験施設が発足したとき、私は化学科 3 年の学生でした。卒業研究で初代施設長であった千原秀昭先生の研究室に入った私は、当時、千原研で助手をされていた阿竹先生の下で熱容量測定を用いた物性研究を始めました。このため、私の初期の論文には施設の業績であることを示す Contribution Number が付されています。阿竹先生の移動に伴う東京工業大学における滞在を経て、東京都立大学に職を得ましたが、池本 勲教授のご理解もあり、断熱型の熱容量測定装置を製作させていただき、熱測定に関わる研究も続けることができました。1995 年から 2004 年までの徂徠道夫先生の下でのセンター勤務を含め、現在に至るまで熱測定に関わる研究を続けてきたことになりますが、この間、センターは私にとっての「参照基準点」であったと言えます。基礎科学の困難な時代にあって、センターが 10 年の時限を機に発展的に改組され、熱・エントロピー科学研究センターとして発足したことを心からうれしく思います。また、特徴的とはいえ、成果を華々しく上げるとは限らないセンターの改組・発足を決断された研究科や大学本部のご理解に心から感謝したいと思います。新センターの名称も、様々な自然現象におけるエントロピーの重要性に対する理解が深まりつつある中、センターが得意とする熱容量測定が実質的には唯一のエントロピーの定量法であることも踏まえた非常に良いものと思います。これまでの成果を踏まえた研究の深化と新展開によって、センターがますます発展することを心から期待するとともに、「基準点」の移動で自分自身が置いてきぼりにならないための精進をお約束して、お祝いに変えさせていただきます。

(Kazuya Saito, Visiting Professor of Graduate School of Science, Osaka University
& Professor of Faculty of Pure and Applied Sciences, University of Tsukuba)